

わたしの
砂漠の小さなお店へ
ようこそ

第72回ロカルノ国際映画祭
最優秀新人監督賞

第11回DMZ国際
ドキュメンタリー映画祭
最高賞受賞

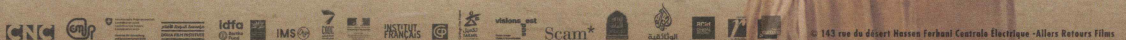
ハッセン・フェルハーニ監督作品

143 SAHARA STREET A FILM BY HASSEN FERHANI

サハラのカフェの マリカ

乾いた大地を行き交う人々を誰でも受け入れるおばあちゃん
そこはまるでオアシスのような場所だった——

sahara-malika.com



© 143 rue du Désert Hassen Ferhane Centrale Électrique - Allers Retours Films

アルジェリアで誕生した
21世紀の“バグダッド・カフェ”
それは魔法のような
新しいロードムービー

人生は
砂のように
流れる

CineVue —

カフェを営む高齢のマリカは、
遠くの間々と同じように雄大な自然の一部のようだ。
砂漠に疲れた旅人は彼女に会う巡礼のように、
この場所にやってくる

Variety —

愛情たっぷりに描かれる一人の女性と道路沿いのカフェは、
この不安定な時代を生きる人へ敬意と親しみを与える



アフリカ北部に位置する世界最大のサハラ砂漠。その砂の大地の真ん中に、簡素な家屋が一軒佇んでいた。そこは砂漠の休息所、年老いた女主人のマリカが一人で切り盛りするカフェ。砂漠を走るトラックの運転手、どこからともなくやって来る旅人たち、ヨーロッパのバックパッカー、行き交う人々が次々とやって来ては、去っていく。マリカはそんな人々と他愛も無いおしゃべりをしながら日々を過ごしていく。国のこと、人生のこと、家族のこと、コーヒーを飲みながら初対面のマリカに人々は打ち明ける。

ゆっくりと時が流れる砂漠の日常をアルジェリアの新鋭、ハッセン・フェルハニが鮮やかに、そして幻想的に描き出す。

カフェは、砂漠のハイウェイのオアシス

砂漠、まさに不毛な大地の形容詞ですが、そこは複数の国や民族が跨る一大交易地帯でもあります。ここでは日夜多くの人々が行き交い、それに伴い現代化の波も押し寄せて来ます。サハラ砂漠には400kmごとに小さな集落があり、それを辿って行くかのように一つのルートが出来上がってきました。その道の長さをおおよそ2400km——本作にも登場する北オアシスに定住する卸売業者は食料品、布地、家庭用品さらには建築資材をトラックで移動しながら各地へと運んでいくのです。

ハッセン・フェルハニ監督作品

143 SAHARA STREET A FILM BY HUSSEN FERHANI

サハラのカフェの マリカ

出演：マリカ、チャウキ・アマリ、サミール・エルハキム
原題：143 Rue du Désert | 英題：143 Sahara Street
アルジェリア・フランス・カタール合作
2019年 | 104分カラー | ドキュメンタリー
監督・撮影：ハッセン・フェルハニ
プロデューサー：オリビエ・ポアシヨ、ナリマン・マリ
製作：Allers Retours Films, Centrale Électrique
配給：ムーリンプロダクション 宣伝：スリーピン

公式 HP sahara-malika.com

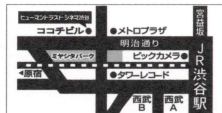
公式 Twitter [Sahara143_JP](https://twitter.com/Sahara143_JP)

© 143 rue du désert Hussen Ferhani Centrale Électrique -Allers Retours Films

8/26(金)より、ヒューマントラストシネマ渋谷、アップリンク吉祥寺ほか全国劇場公開

全国共通前売券 | 400円販売中

明治通り沿い 地下鉄 B1 出口正面 ココチビル 8F
「テアトルシネマグループ」
ヒューマントラストシネマ渋谷
03 (5468) 5551 tctg.jp



吉祥寺 PARCO B2F
UPLINK 吉祥寺
0422-66-5042 joji.uplink.co.jp

